

HOKUSEI@COM

2012・JANUARY

vol. 13

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE WINTER EDITION

北星学園大学 北星学園大学短期大学部



02-03

[特集]
三浦綾子記念文学館
館長
三浦光世さん
インタビュー



02-03

苦しみから
神の真理を学び、
生き抜くこと。

三浦綾子記念文学館
館長 三浦光世さん

04-05

[学生たちの素顔]
～震災復興支援
学生ボランティアの
その後～

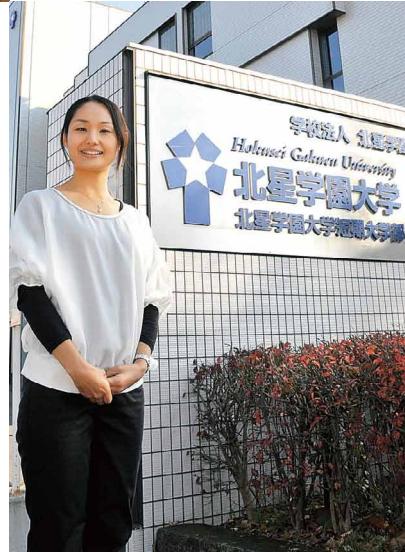
まちと心の
復興をめざして、
いま、わたしたちに
できること。



06

[OB&OG インタビュー]
卒業生は、いま。
日本語教師
塩地 美里さん

世界に通用する
自になるために。



07

[先生たちのその素顔]
文学部 濱 保久先生
モノづくり
から学ぶ！
幸福な社会を
実現するために。



08

[HOKUSEI INFORMATION]
北星学園大学からのお知らせ

大学対抗企画デザインコンペ
グランプリ受賞作品

市電吊り下げ
クーポンが実用化！

- ★大学開学50周年
記念ロゴデザイン決定
- ★大学開学50周年記念講演会
- ★大学開学50周年記念公開講座



[特集] INTERVIEW

三浦綾子記念文学館 館長 三浦光世さんインタビュー

苦しみから 神の真理を学び、 生き抜くこと。

北海道を代表する作家・三浦綾子さんの夫であり、歌人・随筆家でもある三浦光世さん。

綾子さんを天に送り、昨年米寿を迎えた今も

三浦綾子記念文学館の館長を務められ、三浦文学を通して「人はいかに生きるか」というテーマを発信し続けています。

三浦さんと同じく敬虔なクリスチャンであるふたりの学生が、大震災という未曾有の苦しみに直面する

現代日本人の「生きるヒント」を伺いました。



PROFILE

三浦 光世

1924年生まれ・東京都出身。3歳の時に東京から北海道網走管内滝上町へ家族とともに移住。49年に洗礼を受けキリスト信者になる。59年、堀田綾子と結婚。64年に妻・綾子が小説『氷点』で朝日新聞社の懸賞小説に入選し、本格的な作家活動を始めたのを機に勤務していた旭川営林局を退職。綾子の創作活動を支えながら介護にもあたる。98年「三浦綾子記念文学館」がオープン、翌年の99年10月12日、三浦綾子召天。現在、公益財団法人三浦綾子記念文化財団の名誉理事長、三浦綾子記念文学館の館長を務める。著書に「綾子・光世 韻き合う言葉」(北海道新聞社)などがある。

苦しみを尊び、聖書とともに生きる。

吉田:三浦綾子さんは以前、北星学園創立100周年記念講演会で講演をされたことがあると伺いました。また、北星高等女学校の校長もされた札幌北一条教会の小野村林蔵牧師から受洗されたということを伺っています。

三浦:聖書の教えを若い人々に伝える学校と綾子がご縁があったことを、とてもうれしく、ありがたく思います。今日はよろしくお願いします。

村田:私たちの学校はプロテストント・キリスト教学校であり、私も吉田さんもクリスチャンホームで育ったクリスチャンです。同じクリスチャンとして、光世さんが信仰を持ったきっかけについてお聞かせください。

三浦:私が3歳の頃、父が肺結核で亡くなりました。私も父から感染し、15歳の時に腎臓結核、さらに膀胱結核に罹って苦しました。その頃、母の聖書を棚から見つけて読み始め、それを知った兄が「ひとりでは聖書を理解できないだろう」と牧師に引き合わせてくれ、聖書の講義を受け始めたのです。それまで私は「なぜこんな苦しい目に遭うのか」



文学部
心理・応用コミュニケーション学科
3年 吉田真実 (北星学園女子中高出身)

聖書研究会で聖書を学んでいた私たちにとって、光世さんの聖書への思いには考えさせられることがたくさんありました。私も神の真理を伝える生き方をしていくといふとあらためて思います。



文学部
心理・応用コミュニケーション学科
3年 村田光希

以前、牧師からの紹介で光世さんにお会いしたことがあります。今回もお元気いろいろな話を聞いていただき感激しました。震災後の今、生きる糧としての希望を三浦文学からあらためて学びたいですね。

と嘆いていましたが、聖書を学ぶうちに「苦しみがあるから自らの人生と向き合い、神への信仰心が生まれる。苦しみはむしろ尊いものだ」と思えるようになったのです。そして翌年に洗礼を受けてクリスチャンになりました。今でも旧約聖書2章と新約聖書1章を毎日読んでいます。聖書と出会ったおかげで、私はここまで生きてこられたと思っています。



妻として作家として、三浦綾子への思い。

吉田：綾子さんも敬虔なクリスチヤンでしたね。『氷点』や『塩狩峠』など、聖書の教えについて考えさせられる作品を、私も愛読させてもらっています。

三浦：綾子も私と同じく病の多い人生でした。結婚前には肺結核や脊椎カリエスで13年間の闘病生活を強いられ、結婚後も喉頭がん・直腸がん・帯状疱疹・パーキンソン病など、まさに病苦の連続でした。でも綾子は「私って神様にひいきされているのかしら。こんなに病気を与えていただいて感謝しなければ」とユーモアを交えて語っていました。弱音を吐いても当然なのに、「痛い」「苦しい」とはひと言も言わず、自らの苦しみをもって神の真理に近づいていった綾子はすごいな、と今でも尊敬しています。

村田：そんな綾子さんに終生寄り添った光世さんの生き方も、とても尊いものだと感じます。光世さんは綾子さんの執筆活動を支えるために職場を退職されましたが、その決断に迷いはありませんでしたか？

三浦：長く勤めた職場への感慨は深かったけれど、それ以上に「綾子の作品を世に伝えたい」という思いの方が強かったです。握力が弱った綾子に代わり、彼女の言葉を書き取って作品に仕上げる口述筆記もしていました。じつは『氷点』のタイトルや旭川の見本林という舞台設定も私のアイデアなんですよ。夫としてはこれくらいしか妻の役に立てなかつたのですが、綾子はいつも私を楽しませ、励まし、おいしいものは「まず光世さんに」と食べさせてくれました。公私ともに、聖書にある「すでに二人にあらず、一体なり」を実践できたのも綾子のおかげです。私が天に召されたら、真っ先に綾子に会って「勝手なことばかり言う亭主閑白でごめん」とわびたいたいですね。



三浦綾子記念文学館のある見本林を散策。小説『氷点』の舞台であり、三浦夫妻にとっても思い出深い場所です。

苦しみに直面する人々へ伝えたいこと。

村田：東日本大震災からもうすぐ1年。「三浦綾子記念文学館」を運営する三浦綾子記念文化財団でも、一般の方々から寄付していただいた三浦綾子作品を被災地へ贈る事業に取り組まれていますね。

三浦：自らの闘病生活や苦難を乗り越える人々などを描いた三浦作品を被災者のみなさんに読んでいただき、苦しみを乗り越えて生き抜く力になれば、という思いから始めました。綾子の作品には苦難の中で生きるために指針がちりばめられています。以前、文学館を訪れた方で「三浦綾子さんの自伝『道ありき』を読んで自殺を思いとどまりました」という方がいて、とても感銘を受けました。綾子もかつて病気を苦に自殺を図ったこともありました。止めてくれる人がいなければ後の三浦綾子はいなかつてしまふ。その恩返しの意味もあり、私も苦しみ悩む方に『道ありき』を差し上げたりしています。

吉田：私は津波に町がのみ込まれる情景をテレビで見たとき、綾子さんの作品『泥流地帯』を頭に思い浮かべました。津波も火山噴火も同じ自然災害。『泥流地帯』の主人公が「善人ばかりが困難に遭う」と嘆いたように、今回の震災に不条理を感じた人も多いと思います。このような現状の中、クリスチヤンとしてどのようなメッセージを発していくべきなのでしょうか？

三浦：私も信仰と出会う前は、病に苦しむ人生を嘆いて愚痴を言ったこともあります。でも今振り返れば「あの苦しみがあったから今の自分がある」と胸を張って言うことができます。神様がお与えになる人生の試練は、永遠の命への導きです。震災で被害に遭われた方々は、いま大変な苦しみの中にあると思いますが、どうか苦難に立ち向かう勇気を持ち、生き抜いてほしいと思います。のために綾子の作品がお役に立てれば、私も綾子もこんなにうれしいことはありません。

吉田・村田：本日はありがとうございました。



三浦綾子さん生誕90年、特別展「星野富弘との絆」開催。

2012年は三浦綾子さんの生誕90年にあたります。三浦綾子記念文学館では、記念事業として40を超える多彩なイベントを計画中。なかでも、同じクリスチヤンであり、ともに苦難を乗り越えてきた星野富弘さんとの交流を、特別展「星野富弘・花の詩画＆三浦綾子との絆」として6月から10月まで開催。また、4月25日の誕生日には三浦綾子さんの隨筆などをまとめたエッセイ集が9年ぶりに出版され、11月から翌年3月までは、自伝『草のうた』をベースにし、三浦綾子さんの少女時代にスポットをあてた企画展も開催される予定です。



【三浦綾子記念文学館】

- 住 所／旭川市神楽7条8丁目2-15
- 開館時間／9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休 館 日／6～9月は無休、10～5月は毎週月曜日
(国民の休日にあたる場合はその翌日)、年末年始
- 入 館 料／一般500円(450円) 高校・大学生300円(250円) 小・中学生100円(50円)
※()内は10名以上の団体料金 高校生以下は毎週土曜日無料
- 電話番号／(0166)69-2626 ●ホームページ／<http://www.hyouten.com/>



★三浦綾子さんの名作にちなんだ「氷点橋」開通。

2011年4月、旭川・神楽地区と市内中心部を結ぶ「氷点橋」が開通しました。これにより、旭川駅から三浦綾子記念文学館へのアクセスもぐんとスムーズになりました。



～震災復興支援学生ボランティアのその後～

まちと心の復興を めざして、 いま、わたしたちに できること。

前号でご紹介した本学学生による東日本大震災被災地支援ボランティア活動。被災者はもちろん支援者からも大きな反響があり、2011年7～9月にかけて第2弾(2期間)・第3弾(4期間)を実施しました。時がたっても消えない被災者の苦しみに寄り添う日々の中、学生たちは何を考え、どう成長したのでしょうか。



関川さんと鈴木さんが参加したボランティア第3弾の派遣式。



永田さんが参加した大槌町の炊き出しのようす。「北海道から」と聞いて驚く被災者も。

【被災地での炊き出しボランティア】7月8日～10日 / 7月22日～24日

2011年7月、2011年4月の炊き出しボランティアの際に宿泊所を提供してくださった教会の関わりで日本バプテスト連盟災害対策本部チーム青森・岩手から依頼を受けて、本学からの学生ボランティアを派遣。2チーム計学生8名が参加し、岩手県大槌町の避難所でボランティア活動に従事しました。



経済学部 経済学科 2年
たかはし ゆきこ
高橋 侑子さん



社会福祉学部 福祉臨床学科 3年
ながた よしひろ
永田 佳裕さん



文学部 英文学科 3年
せきかわ はるな
関川 春奈さん



短期大学部 英文学科 2年
すずき ゆり
鈴木 優里さん

【仮設住宅でのサロン活動、子ども向け学習支援など】

2011年8月17日～9月13日(1週間ずつ4期間)の4回にわたり、岩手県立大学学生ボランティアセンターとNPOの協働プロジェクト「いわてGINGA-NETプロジェクト実行委員会」が主催する被災地支援ボランティア活動に本学学生計28名が参加。仮設住宅に暮らす人々の交流活性化や子どもたちの学習支援などを行いました。

被災地で知った、子どもたちの心の傷。

永田:ぼくは、もともと東北福祉大学の学生で仙台に住んでいましたが、震災が起る前から北星学園大学3年次への編入学が決まっていたんです。ところが、3月11日に震災が発生。混乱が続く中、2週間後に実家のある北海道へ戻ったところ、家族は「無事に帰れてよかった」と喜んでくれましたが、ぼく自身は複雑な思いでした。家族が亡くなってしまった友人もいるのに、自分は札幌で普通に暮らしている…そんなギャップを抱えて空しさやもどかしさに悩んでいる時、学生ボランティア募集を知り、すぐに参加を決めました。

高橋:私は永田さんと同じ派遣チームで、岩手県大槌町立安渡小学校避難所での炊き出しをお手伝いしました。4月に実施された第1弾に続く風月(株)のご協力で、お好み焼きや焼きそばを配布したほか、被災者のみなさんに夏まつりの雰囲気を味わってもらおうと、かき氷やヨーヨーなどの縁日も出店しました。私は以前から国際ボランティ



アに興味があり、「北星フェアトレード(学内の教員と学生で組織)」に参加しているんですが、震災を機に「今は自分の国のためにできることをしなければ」と思い、復興支援ボランティアに参加しました。

関川:避難所の子どもたちのようすはどうでしたか?

永田:想像していたより元気で明るく、子どもたちから逆に元気をもらった感じです。でも炊き出しの最中に大きな余震があり、泣き出す子もいて…震災の体験が心の傷になっているのかな、と感じました。

高橋:つねに無意識の恐怖を感じているのかも。テレビゲームに慣れた最近の子は縁日の遊びに興味を示さないのでは、と思っていたけれど、ヨーヨーもくじも足りなくなるほど子どもたちがたくさん集まってきたんですね。やはり、まだ子どもたちが日常的にのびのび遊べる状況ではないんだな、と思いました。

鈴木:永田さんは自分も友人も被災した中でボランティアにも参加し、特別な思いがあるのでは?

永田:そうですね。震災直後の仙台は都市機能が壊滅状態で、今までいかに便利で快適な生活を送っていたかを痛感させられました。それでも津波に遭った地域に比べれば被害は少なかったし、自分で動ける力もあったのに、現地で何もできなかつた自分に腹が立ちました。だから被災した人々のために何か

したくてボランティアに参加したのですが、震災から数か月たってもがれきが山のように残る被災地を見て、この短期間に自分ができることはちっぽけだと強く感じ、夏休みにも個人的に被災地を訪れ、がれきの撤去作業に参加しました。安渡小学校の炊き出しはぼくたちの活動が最後だったそうで、これから被災者の生活がとても心配です。自分にできることがある限り、これからも被災地支援を続けたいですね。

伝えたい、続けたい、復興支援ボランティア。

高橋：関川さんと鈴木さんはどんな活動をしたのですか？

関川：私は岩手県釜石市平田仮設団地で、住民同士の交流を深めるためのコミュニティ活動「お茶っこサロン」を行いました。私が参加した期間には全国から約200名の学生が集まり、いくつかのグループに分かれて、サロンの存在を知つて来てもらうためのビラを配ったり、被災した人々とお話をしたり、子どもたちと遊んだりしました。

鈴木：私は関川さんとは別の派遣期間で、釜石市の新日鉄松倉サッカー場の仮設住宅へ行きました。「お茶っこサロン」の目的は、震災で今までのご近所付き合いを失ったみなさん、仮設住宅で互いに支え合える関係を新たに築いてもらうこと。みなさん大変な状況なので打ち解けてもらえるかどうか心配でしたが、ビラ配りをした翌日から子どもも大人もたくさんの方が来てください、明るいおしゃべりに花が咲いてほつとしました。現地はスーパーも営業していたし、ボランティアの私たちにも三度の食事と飲み物が支給され、復興が進んでいるように見えましたが、津波で親を亡くした子どもや奇跡的に助かった方のお話を聞いていると、簡単には癒えない心の傷が痛いほど伝わってきました。



関川：私たちは仮設団地の交流活性化の一助として、誰がどこに住んでいるかひと目でわかる“住宅マップ”を作ろうとしたんです。そこで名前を載せてもよいか一軒ずつ確認したところ、ほとんどの方が快諾をいただいたのですが、「載せたくない」という方が何人かいて…そこを空欄にしてマップを作るとむしろ人間関係に支障が出るのでは、という意見があがり、マップ作りは中止になりました。被災した人々が抱える傷や思いはさまざま。短期間のボランティアで一人ひとりに寄り添うことの難しさを肌で感じると同時に、だからこそ復興支援活動を継続していかなくてはならないと心から思いました。

鈴木：私がお話を聞いた中でも「今は仮設住宅で暮らせるからいいけれど、ここを出たらどうなるのか不安でたまらない」という方がいました。一回や二回の活動では解決しない問題だから、長い目で見た支援が必要ですね。

永田：大学でも、これまでに被災地支援ボランティアに参加した学生が集まり、自主的なボランティア活動を実践しようという動きが出てますね。でも最近、周囲と話していると被災地への関心が薄れつつあるを感じます。被災当事者とボランティアの両方を経験したぼく自身が発信者にならなければ、とあらためて思います。

鈴木：ひとりでは難しい支援活動も、団体ならできることがいろいろあるはず。今後も積極的に参加したいです。

高橋：今回の体験を友人に話すと、テレビでは伝えられない現実にショックを受け、「自分も行きたい」と言う人が少なくありません。経験者として伝えることも復興支援のひとつになるのかも。

関川：私もそう思います。今回の経験を活かして、これからは支援活動をマネジメントする側となり、ボランティアを希望する人たちをサポートする活動もしてみたいと思っています。



震災の記憶、活動の記録。



津波から約2週間たった宮城県七ヶ浜町。
「声も出ないほどの悲惨な光景でした」と永田さん。※写真は本人撮影



鈴木さんのグループでは、新日鉄松倉サッカー場(釜石市)仮設住宅の人々へのメッセージを色紙に託してプレゼント。



炊き出しと縁日を行った大槌町立安渡小学校界隈。
がれきの山が被害の大きさを物語ります。



今回の宿泊先となった五葉地区公民館(気仙郡住田町)に隣接する体育馆。壁には「いわてGINGA-NET」に参加した全国の学生から贈られた寄せ書きが。

OB & OG Interview

卒業生は、いま。

世界に通用する自分になるために。

団体職員からシンガポールの日系企業の社長秘書に転身。さらに米国公認会計士の試験に合格し、現在は中国で日本語教師を務める。「やりたいと思ったらすぐ行動してしまいます」と笑う塩地さん。一時帰国で訪れた大学キャンパスを懐かしそうに眺めるその目は、今も世界を、未来を見つめています。



シンガポールのインド寺院の前で。
「シンガポールに住む人は出身国も宗教も
さまざまなので、異文化を柔軟に受け入れる
土壤があるんです」と塩地さん。



日本語教師
しおちみさと
塩地 美里さん
(旧姓 山口)
2001年3月 北星学園大学 経済学部 経済学科卒業

海外で働く夢をかなえてシンガポールへ。

大学在学中に「海外事情」という授業の一環で、初めての海外タスマニアへ。日本をたつときは冬だったのに現地は真夏！太陽も月もひとつなのに北半球と南半球で季節が正反対になる——当たり前ですが、回っている地球の上で私はいま生きているんだな、と改めて実感しました。この経験が鮮烈で、いつかは海外に住んで働きたいという思いがずっとありました。でも大学卒業後は札幌の非営利団体に就職。数字が苦手なのに経理に配属され、とても不安で…。ただ、親身になって支えてくれる人たちが周りにいたので、いつも助けてもらっていました。そして4年ほどたった頃、再び海外への憧れがよみがえってきたんです。就職後も英語の勉強を続けていたこともあり、思ってゴー！と聞いていたシンガポールへ行き、滞在中に就職活動を実践。幸いにも日系企業に採用が決まり、シンガポールで働きはじめました。

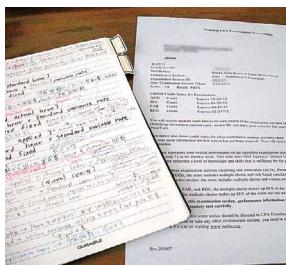
「経理+英語」を武器として「米国公認会計士」に挑戦。

シンガポールでは社長秘書として採用されたが、前職の経理経験が考慮され、財務資料の作成を任されるように。すると苦手なはずの経理が、英語の視点で見ると意外にも面白く感じるようになってきたんです。そこで「経理+英語」を今後の自分の武器にしようと考え、国際的に通用する資格として米国公認会

計士(USCPA)の取得を決心しました。ちょうど結婚して日本に帰国したので、もっぱら北星学園大学の図書館が勉強場所でした。専門的な会計英語が頻出する問題を制限時間内で読み解くのは容易ではなく、資格取得に必要な4科目すべて合格するまで4年かかりました。大変でしたが、経理への苦手意識を克服して自分の新しい可能性をひらいたことは大きな自信になりました。

北海道とアジアの架け橋として。

現在は夫の赴任地である中国・青島で日本語教師をしています。振り返ってみれば、大学の海外研修をきっかけに「海外で働きたい」という夢が生まれ、シンガポールへ行く際には相談したゼミの原島先生が背中を押してくれ、大学図書館でUSCPAの勉強をして…この大学との出会いがなければ、今の私はいなかつかもしません。海外で生活てきて実感するのは、北海道の素晴らしさ。おいしい食べもの、雄大な自然と美しい風景、人の心のあたたかさ…北海道はいまアジア各国で大人気ですが、ガイドブックにはない北海道の魅力をもっとたくさんの人々に知ってほしいと思います。将来は北海道とアジアを結ぶお手伝いができればうれしいですね。自分を育んでもくれたそれぞれの土地へ、いつか恩返しをするのが長期的な目標です。



USCPAの勉強で使用したノート
と合格通知。ライセンスを取得する
ためには、さらに倫理試験などを
受ける必要があります。

「大学図書館でCPAの勉強をした
日々もいい思い出。今も帰国する
たび大学に行きたくなるんです。」

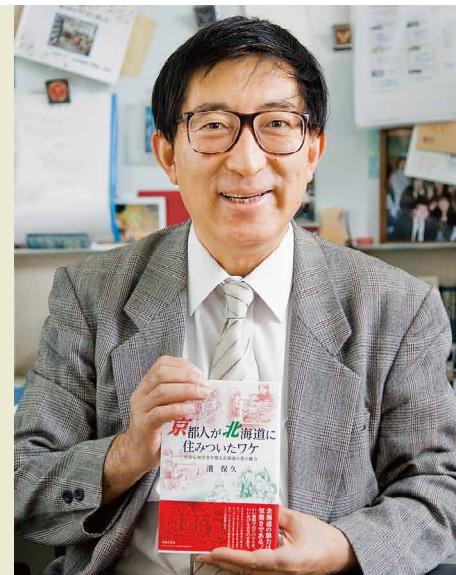


Featured Faculty Member

先生たちのその素顔

●文学部 濱 保久先生●

モノづくりから学ぶ!
幸福な社会を
実現するために。



著書「京都人が北海道に住みついたワケ」は道産子にも目からウロコの話が満載。



モノづくりを通してコミュニケーションの基礎をつくる。

産業心理学や社会心理学などをおもな研究分野としており、心理学的な側面からコミュニケーションを科学すると同時に教育においては常に現場感覚を意識しています。たとえば長沼の農家で馬小屋のリフォームをする「建築実習」。文系の教育としては異端に見えるかもしれません、建築作業や農作業を体験することによって、モノの裏側には必ず誰かの大変な働きがあることを学生諸君は頭でなく体で学習します。彼らはほんとうに見事に変身します。そこで初めて、モノの作り手に対する尊敬や感謝の念が生まれ、今まで話す気もなかった職種の人々とコミュニケーションをとろうかなという気持ちが生まれます。日本では崩壊してしまったこの感覚は、私が研修していたドイツでは当たり前のことで消費者と生産者の距離も日本ほど離れていません。私のゼミの恩師は常々「生産なくして消費なし」とおっしゃっていましたが、私も微力ながらそれを学生諸君に伝えていきたいと思っています。お金とモノにのみ価値を見出す殺伐とした社会でなく、人にこそ価値を見いだす温かい社会を実現する人材を一人でも多く社会に輩出したいと毎日のように考えています。

公私にわたる大谷地とのいい関係

京都の大学で経済学を学び、保険会社に就職。新入社員教育担当部署に配属され、教育・研修を実践するうちに産業心理学に興味が湧いてきて、大学院で心理学を学びました。北海道には30年前に来ましたが、非日常のもてなしをサービスと考える関西と違って、あまりにも普段どおりの接客ぶりに驚きましたね。最初は違和感をおぼえましたが、今はそれもざくばらんに気軽に北海道の特長のひとつとらえています。このあたりのお話は昨年上梓した『京都人が北海道に住みついたワケ』をご一読ください(笑)。大谷地には20年以上住んでいますが、ここは地域住民の絆が強く、古き良き時代のほのぼのとした雰囲気が残っていて大好きです。私のゼミでも「ヤチフェス(大谷地スノーフェスティバル)」、「やちっこ野菜村(食育プロジェクト)」、「やちっこパン屋さん(職業体験)」など、地域をフィールドとした卒業研究を数多く手掛けてきました。大谷地東小学校の子どもたちや町内会のみなさんとの交流は、学生たちにとってかけがえのない財産となっています。私も町内会のお祭りで焼きとりを焼くなど、これからも公私ともに大谷地とのお付き合いが続いていきそうです。

PROFILE

はま やす ひさ
濱 保久

1954年京都府生まれ。
1976年同志社大学経済学部卒業。
2年間の金融機関勤務を経て同志社大学大学院
文学研究科心理学専攻博士課程に入学。
産業社会心理学を学んだ。
1981年に来道し、北海道大学社会心理学講座で
約10年勤務。
1991年4月、北星学園大学に着任。
現在は同大学文学部心理・応用コミュニケーション
学科の教授として、コミュニケーション心理学、
建築系フィールド実習などを担当している。

〈濱先生の主な著書〉

- 『現代心理学の基礎と応用』
(培風館・1996年／共著)
- 『感情心理学への招待』
(サイエンス社・2001年／共著)
- 『京都人が北海道に住みついたワケ』
(共同文化社・2011年／単著)



「ヤチフェス」の会場づくりのため、大型ショベルカーのハンドルを自ら握って作業に没頭中。



自家用車をたこ焼き仕様に作り変え、腕をふるうご本人。本場関西の京都蛸虎流「たこ焼き」づくりの腕は玄人はだし。「リタイア後はたこ焼き屋になるのが夢です。」

TOPICS

学生のアイデアで街を元気に!

大学対抗企画デザインコンペ グランプリ受賞作品

市電吊り下げクーポンが実用化!

2010年9月に開催された札幌メディアアートフォーラム(SMF)主催の大学対抗企画デザインコンペで、北星学園大学短期大学部生活創造学科クリエイティブデザインゼミのチームが出品した「市電吊り下げクーポン」がグランプリと市民賞をダブル受賞。2011年11月から実用化され、クーポンを導入した市電が走り始めました。車内にぶら下がるクーポンを乗客が持ち帰り、企画参加店に提示すると割引サービスが受けられるしくみ。「市電から街を元気にしたい」という学生の願いとアイデアが詰まったクーポンは今年2月29日まで対象車両で入手可能。この機会にぜひ市電に乗ってみてください。



2012年に北星学園大学は開学50周年を迎えます。

～北星学園大学短期大学部は開学61周年、学校法人北星学園は創立125周年を迎えます～

北に輝く星をはぐくみ、半世紀。

北星学園大学は、社会の要請に応える男女共学の4年制大学として1962年に開学しました。

学生一人ひとりが北の大地に輝く星となることを願い、

キリスト教による人格教育を基礎とし、広く教養を培うとともに、深い専門教育を実践して半世紀。

大きな節目を迎えた2012年、本学ではさまざまな記念事業を予定しています。



1962(昭和37)年、開学当時の南5条(表示変更により現南4条)仮校舎。



1964(昭和39)年、前年の火災により現在の大谷地にプレハブ仮校舎を建築・移転。



1974(昭和49)年頃の校舎。今はなきチャペルの塔が印象的。



白を基調とした機能的な建物が点在する現在のキャンパス。

※記念講演会、記念公開講座の詳細情報につきましては、随時ホームページで更新いたしますのでご確認ください。 <http://www.hokusei.ac.jp/50th/>

【お問合せ先】北星学園大学・北星学園大学短期大学部 総務課 TEL:011-891-2731(内線4150) FAX:011-892-6097 E-mail:50kinen@hokusei.ac.jp

大学開学50周年記念事業

北星学園大学50年の歩みを表現。

大学開学50周年 記念ロゴデザイン決定



北星学園内の学生・生徒、同窓生、教職員からの応募95作品の中から、厳正な審査の結果、採用作品が決定。北星学園大学の校章を背景に、色づくライラック・学生の成長・大学の発展のイメージを50年の歩みに重ね合わせています。

著名な有識者が時代を語る。

大学開学50周年記念講演会

- 会場／道新ホール(全2回・入場無料)
- 開場／13:00
- 開演／13:30～15:00
- テーマ／「光が黒雲をつらぬくとき—〈複合不幸〉時代を生きる—」
【講師】

第1回 2012年6月16日(土) 濚地久枝 氏(ノンフィクション作家)
第2回 2012年6月30日(土) 内橋克人 氏(経済評論家)

北海道の現在～未来を考える。

大学開学50周年記念公開講座

- 会場／北星学園大学及び札幌市青少年科学館
(全5回・入場無料・但し、第5回のみ招待制)
- 開催時間／18:20～19:50
- テーマ／「今、私たちの世界を見つめる
—北の大地と星と希望と—」
【講師】

2012年9月28日(金) 土橋信男(北星学園理事長)

2012年10月5日(金) 札幌市青少年科学館天文係職員 様※予定

2012年10月12日(金) 菊地寛氏(元北星学園大学教授)

2012年10月19日(金) 鈴木直道 氏(夕張市長)

2012年11月2日(金) 中澤一行 様・由紀子 様ご夫妻

(岩見沢市栗沢町ワイン用ぶどう農園主)